

平成20年12月9日（火）

（午後2時41分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、24番 中西健君。

〔24番（中西 健君）登壇〕

○24番（中西 健君）きょうは一般質問の中でございます。朝から午後にかけて橋本市にとって重要な論戦を展開した後、私が受けてただ今から質問をしてまいりたいと思えますが、私の経験上、今の時間帯が非常に行政、各議員の皆さんには疲れが一気に来るように、私の経験上から。私の1時間でございますので、おつき合いをよろしくお願ひしたいと思います。

今年もあとわずかとなりました。20日足らずで今年も終わろうとしています。今年、国内外いろいろなことがございました。

一つは、社会不安。幼い子どもたちの命が奪われた悲惨な事件もありました。それから、せつかく苦勞して育てた子どもが親を殺生するというこんな悲しい事件もたびたびありました。また、最近では秋葉原のいわゆる無差別殺人、殺傷、こういうような大きな事件もあり、最近では犬を簡単に処分された。たったそれだけの理由で、何の関係もない人が殺されたりけがをしたという、この事実も最近の話であります。人間の命ははかないものだ。犬より軽く扱われた。本当に我々としては胸の痛みを覚えるわけでございます。やり切れない気持ちが、私だけでなく国民の皆さんもそう感じているであろうと思います。

二つ目は、経済不安。サブプライムローン問題に端を発し、世界同時金融危機、円高、株安、世界の実態経済に大きな影響をもた

らしております。これは100年に一度の大不況で、まさに世界恐慌の前ぶれであろうと、こういうように私は感じます。大企業の倒産、それから大企業の業績が悪化されている。そうした中で影響を及ぼしてくるのが、やはり下請け、中小企業、そして来年背広を着て大きな会社へ入社、大企業へ入社が決まった新卒の方々の取り消し、それからこれからもう既に始まっておりますが、社員及び雇用者のリストラ、特に私は非正規雇用者のもう既にリストラ始まっておりますが、これはもう死活問題であると。私は、自殺者も出ないかと1人として心配をしておりますが、こういう状況の中で年明けとともに失業の問題が大きくクローズアップされる。この政府の対応を我々は見守っていきたいなとこういうふうに思っております。

3番目は、政治不安。今、新聞・テレビでも皆さんご承知のとおり、福田さんの後を麻生さんが受け継いで、自民党はじめ与党の皆さんは選挙に戦える総理を麻生さんでいこうとこういうように誕生したわけですが、当の本人いわく、選挙より経済優先。いわゆる経済対策が優先であると、こういうことで本人は息巻いておったんですが、手始めに打ち出したのが定額給付金制度。これは国民の中から、ばらまきだ、選挙対策だという非難を受け、非常に麻生さんとしては全く想像もつかなかったような状況に追い込まれたことは事実であります。

また、年末の資金繰り。これも中小企業は大変でございます。そうした中で、第二次補正予算を提出すると言っておったんですが、いまだに提出しない。来年の通常国会に提出と、こういうように変えてきております。政

局より政策だと、こういうふうに言っておったんですが、国民から見ればそんな弁解の余地はなしとこういうような気持ちであろうと思います。漢字が読めない、空気が読めない。これはもうダブルK Yという、これはもう新聞の論調にも出ておりましたが、それからたび重なる失言、ころころ変わる発言に迷走ばかり。これが日本のトップかと情けないという声が国民の中から聞いております。

政治への不信。これが不安、これはもう増すばかり。ある学者は日本の経済・政治の崩壊の始まりであると、これは警告しております。与野党の国会議員の皆さんに申し上げます。1日も早くこの現実を踏まえ、永田町、霞ヶ関の目線に合った政治でなく、国民の目線に合わせた政治を望むのは、私だけでなく多くの国民の願いであります。

地方行政と我々は携わる中で、この現実を真摯に受けとめ、市民の信頼を勝ち取るためにも、係る行政課題に取り組んでいかねばならないと強く感じております。

政治とは可能性の芸術であると、そして対立勢力との論戦、調整、妥協によって初めて可能になると。これは毎日新聞社の名前を忘れましたが、政治部長の新聞での記事でございました。今こそ我々は市民の目線に合った市政の実現こそ、より高い芸術が生まれる。その延長線上に市民の信頼が得られるものと確信をいたします。地方はより強くなり、地方から国を変えていくぐらいの気迫が、今必要かと存じます。

冒頭でのコメントはこれぐらいにして、本論の質問に入りたいと思います。

まず1点目は、私は平成18年9月議会で、魅力あるまちづくりの一つとして、橋本市の子どもは橋本市が責任を持って育てることが重要であると、こういうことを市当局にぶつけたわけでありまして。その一環として、文化

勲章を受章され、橋本市・奈良市の名誉市民であります数学博士、郷土が生んだ偉人、岡潔先生の偉業をたたえ、その功績を子どもたちに伝え、算数の及び数学、強い子どもを育てようという提案をしたところ、橋本市岡潔数学WAVEを設立していただきました。ようやく第一歩を踏み出したわけです。そのことについては私は決して、くそ教育委員会とは言いません。教育委員会に対して、心から厚く御礼を申し上げたいと思います。

4点、ひとつ具体的に私の質問にお答えいただきたいと思います。

一つは、おもしろ算数・数学教室（講座）の開催に、それから研究会・講習会の開催、それから3番目に偉人、岡潔の顕彰、4番目に会員募集。これについて、具体的にお示しをいただきたいと思います。

それから、2点目であります。紀伊見荘なんですが、この経営について、これは昭和44年にオープンしたんだと思いますが、今日経営状態が非常に悪い。そうした中で、将来への展望が見出せないのではないかなど、こんな私は思いをいたしますので、市当局として撤退を含めて今見直しの時期に来ているのではないかなど、こういうことでありますので、市当局のご所見を賜りたいと思います。

3番目は、枠内配分による予算編成であります。4番議員も初日のトップでこのことは質問されておりましたが、また角度を変えてお聞きしたいと思います。

枠内配分については、なぜ枠内配分なのか、根拠をお示しいただきたい。

多くの問題が生じているのではないかと、こういうように危惧をしております。

以上、3項目にわたる質問に対してご回答よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）中西健議員の一般質問  
に対するの答弁をいたします。

国民宿舎紀伊見荘の経営状態等のおた  
だしでございますが、国民宿舎紀伊見荘は、昭和  
44年8月、矢倉脇区の根古川沿いに完成いた  
しました。根古川漁業協同組合に管理運営を  
委託いたしました。建物そのものは、築後40  
年近く経過しております。

過去、二度の大規模改修を経て、現在の施  
設は鉄筋コンクリートづくり4階建て、建物  
面積2,636㎡、客室24室、宿泊定員114人、温  
泉、食堂、大広間や会議室、結婚式場、テニ  
スコート3面などを完備し営業をいたしてお  
ります。

平成18年4月からは、地元矢倉脇の有限責  
任中間法人根古川地域振興協会に5年間の指  
定管理を委託しております。協定書に基づく  
使用料は年額1,433万1,000円で、内訳として  
は、施設の大規模改修に伴う起債償還と利子  
分、消費税、国民宿舎基金積立金となってお  
ります。

議員のおただしの経営状況についてでござ  
いまして、近年の生活スタイルの変化による  
全国的な国民宿舎離れであるとか、施設の老  
朽化等により紀伊見荘の宿泊客は、平成11年  
度1万4,592人に対しまして、19年度は1万  
174人と30%の減少となっております。ござ  
いまして、売上額も平成11年度2億6,050万円  
から19年度1億7,258万円と34%に落ち込ん  
でおります。結婚式の利用も  
時代の変化とともにほとんどございませんで、  
大幅な現状としては落ち込みとなっているの  
が事実であります。

経営改善の取り組みは、指定管理者をはじ  
め、関係職員が県外の類似温泉施設への視察  
研修や経営コンサルタントの指導等を通じて

大幅な見直しに取り組んでおるところでござ  
いまして、全スタッフ34人の意識改革研修、  
支配人の交代、調理人の一新と新メニューや  
昼食の導入、設備の改善等に取り組み、11月  
の営業収益は昨年同月に比べ、約300万円の売  
り上げが増加しておりますのが現状でござい  
ます。徐々ではありますが、成果があらわれ  
てきつつございます。

さらに、年末年始を前にして、根古川地域  
振興協会と従業員が一丸となり、収益向上に  
努めているところであります。

これらのことを踏まえ、市といたしまして  
は、指定管理契約期間であります。現在分  
割となっている使用料の支払い状況並びに  
来年3月末時点での経営状況を勘案した上で、  
今後の指定管理継続のあるなしについて、適  
切な判断をしたいと考えてございます。ご理  
解のほどお願い申し上げます。

なお、残余の件については担当参与よりお  
答えをいたします。

○議長（中上良隆君）教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）中西健議員からおた  
だしの数学ワンダーランド基本計画について  
お答えをいたします。

平成18年度から橋本市名誉市民岡潔博士の  
顕彰と算数・数学教育の質の向上を目的とす  
る本計画の準備を進めてまいりました。

世界的数学者を輩出したこの橋本市で、「算  
数・数学が楽しい」「算数・数学が面白い」  
と感じる子どもを1人でも多く育てたいとい  
う願いから、またふるさと橋本市に誇りを持  
てる市民を育てたいという願いから、「橋本市  
岡潔数学WAVE」を設立しまして、事業と  
して、子どもたち、保護者を対象とした算数・  
数学教室の開催、研究会や講習会等の開催、  
岡潔博士の顕彰等を行っていきたくてござ  
います。

1点目のおもしろ算数・数学教室の開催についてでございますが、考えることのおもしろさを体験してほしいと、小・中学生を対象に実施しております。平成19年度は1回、平成20年度は2ヶ月に1回のペースで4回、中央公民館等で休日に実施しております。

特に、小学生対象の講座は、参加者も100名程度あり、親子がともに数学の問題に挑戦する場として、大変好評でございます。

事業を拡大するためには、ボランティアの指導者が不足しておりますので、会員を募集し、指導者のチームづくりを進めているところです。今後は各地区公民館等で定期開催をめざしたいと考えております。

2点目の研究会・講習会等の開催についてでございますが、新聞にも掲載されましたように、昨年8月に岡博士が名誉教授を務められた奈良女子大学、大阪市立大学の協力を得て、「岡潔先生との出会い」と題して教育講演会を実施いたしました。今後は市民への啓発の場として、岡潔先生の顕彰の場として、また指導者の力量向上の場として、セミナー等を計画してまいりたいと考えております。

3点目の、偉人、岡潔先生の顕彰についてですが、現在、橋本市郷土資料館に岡先生に関する資料が展示されております。また、『春宵十話』などの書籍は、橋本市図書館にあります。顕彰という点では不十分であります。今後、イベントや広報活動等も企画し、さまざまな機会をとらえ実施してまいりたいと考えております。

4点目の会員募集については、会費制とし、広く市民の方々から全員会員を募っております。本年8月9日の橋本市教育フォーラムを皮切りに募集を開始いたしました。フォーラムでは、今回の趣旨に賛同いただき、名誉顧問になっていただいた東海大学の世界的数学者でございます、秋山仁教授に講演いただき、

中学生を対象に公開授業もしていただきました。また、フォーラム終了後には、参加者に本会の設立に向けた説明会を開催いたしました。

なお、会員につきまして、各議員の皆さま方全員の方々に会員登録をいただきました。ありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

また、ロータリークラブ主催の岡潔没後30年記念講演会での広報、11月30日実施の橋本市子どもまつりでのブース開設やパネル展示教育委員会ホームページ等で広報に努めておりますが、現在のところ会員数は団体会員1団体、個人会員95名、教室の指導者が7名と、まだまだ少ない状況でございます。1人でも多くの方々に賛同いただけるよう、今後努力してまいりたいと考えております。

教育委員会では、橋本市が教育のまち、理数教育の充実したまちとなるよう、橋本市数学ワンダーランドの創設を目指し、今後とも積極的に歩んでまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご指導、ご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

○議長（中上良隆君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）それでは次に、枠内予算配分についてのご質問にお答えをいたします。

4番議員に対するご答弁と重複する点もございまして、ご了承賜りますようお願いいたします。

地方財政は、急激な少子高齢化の進展、社会保障関係費の増大、地球温暖化対策費、過去の公共事業に対する公債費など、ますます財政需要が伸びていく中で、国の歳出削減と歩調を合わせつつ、地方自治体の自助努力をもって財政の健全化が求められているところでございます。

このような状況の中で、本市の財政状況を見てみますと、合併後の平成18年度一般会計における決算では、歳入歳出差し引き後の実質収支額は4,224万2,000円の黒字となっておりますが、この黒字額は財政調整基金など7億9,000万円を取り崩しての黒字計上であり、結果的に見れば7億4,775万8,000円の資金不足が生じていることとなります。

また、平成19年度決算では、歳入歳出差し引き後の実質収支額は1億5,720万円の黒字となっておりますが、平成18年度と同様、この黒字額は財政調整基金など5億4,000万円の取り崩しと土地開発基金2億848万4,000円の一般財源化により黒字計上できたものであり、結果といたしまして平成18年度より資金不足額が減少したとはいえ、5億9,128万4,000円の資金が不足した状況でございます。

このような資金不足の状態が続くと、財政調整基金や減債基金など、一般財源化でき得る基金が枯渇した場合に、赤字決算を計上せざるを得ない状況となることから、平成20年度当初予算編成時点におきまして、従来の予算編成手法を抜本的に改め、積み上げ方式から枠配分方式への転換を打ち出し、3年計画で資金不足額が生じないよう全庁的に取り組むことといたしました。

具体的には、初年度である平成20年度で3億円、平成21年度で1億8,000万円、平成22年度で1億2,000万円、合計3カ年で6億円の一般財源を削減する計画であります。

本市における枠配分方式は、人件費や扶助費、公債費などの義務的経費及び普通建設事業費などの投資的経費、特別会計、企業会計への繰り出し金、一部事務組合への負担金等を除き、賃金、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料、備品購入費など経常的な経費、いわゆる物件費を中心とした経費に係る一般財源を削減すべく、各部署に配分する方法

で実施しております。

また、従来の予算積み上げ方式では、市全体の歳入予算に関係なく、各課単位での予算要求となり、ややもすれば慣例的、例年どおりといった要求になりがちでございますが、物件費を中心とした経常的経費に係る一般財源を部署に配分することにより、職員個々にもコスト意識が芽生え、さらにそれぞれの部署においても、創意工夫による経費の削減に積極的に取り組んでいただけるようになってまいりました。

特に、予算要求額が法的に問題のある場合や、予算を執行する上で不適切であると判断された場合を除き、配分された額の範囲内では部長裁量により予算額の決定が可能となることから、各部の自主性・主体性が尊重され、かつ早期に財政健全化が図れるものと考えております。

次に、多くの問題が生じているのではないかとのおただしでございますが、経常的経費を配分額内に抑えるため、市民の皆さまや議員各位にもご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げますとともに、各部署においても、大変苦勞していることは十分承知いたしております。

特に、予算要求を行う各部署にあつては、配分額内に抑えようとしても法律や条令の定めのある場合や特別な理由があるなど、必然的に枠内に収まらない場合があるのも、実態としてございます。このような場合は、特殊要因があるものとして取り扱うことといたしております。

いずれにいたしましても、今、枠配分方式を取り入れずに、従来の予算積み上げ方式を継続していると、根本的な財源不足の解消は困難で、財政健全化にも長期間を要する結果となり、しいては将来今以上に経費を削減しなければならないことにもなりかねません。

この点をご理解いただき、今後ともご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君、再質問ありますか。

24番 中西健君。

○24番（中西 健君）答弁をいただいたわけですが、まずはじめに数学ワンダーランド計画、岡潔先生の顕彰の中からこういう計画を立てていただいたわけですが、この1番がおもしろ算数・数学講座をもう既に開催しておると。特に、小学生から100名という参加をいただいております。これは、中央公民館、今現在のみしかやっていないと。なぜなら、その講師が不足しておるといふ、今説明をいただいたんですが、これはやっぱりこれだけの反響が出たら、各地区公民館にこの教室を設置する。そして、全市的にやるのが、橋本市の子どもの数学・算数の学力をいち早く底上げできるのではないかと。

今、大阪府でも先ほど大阪府知事のことを申し上げましたが、大阪は非常に教育水準が低いということ。知事はリーダーシップを発揮して、いろいろ頑張っておられるわけですから、これは前に木下市長が当選したときにも、教育のまちを目指すということを力強いこの議場での宣言をいただいておりますので、これ本来、これも先ほどから予算のお金の問題が出ていますけれども、講師の問題については、やっぱり何とか市費でできないのか、ひとつ。これは財政との関係がありますので、ひとつはお聞きしたいと。

もう一つは、講師の募集については、どのような方法でやられているのか、ちょっとこれ2点だけお答え願えますか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）講師のどうしてしているかということ、後でまた答弁させても

らいます。

○24番（中西 健君）講師。市費で授業をやるせないか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）現状を申し上げますと、19年度で岡潔おもしろ算数・数学教室、これが5万円の予算を実行しております。それと、同じく市研究委託費の中から7万円の実行をしております。

20年度につきましては、市研究費委託費からおもしろ算数・数学教室として11万円の支出をしております。

以上です。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）今、市の持ち出しは11万円とこういうふうにお聞きしたんですけど、ちょっと教育にめざす方向としては、非常に残念ながら予算が不十分であると。

やっぱり教育というのは、これは家庭でももちろん教育費というのはかさむわけで、この間からも学力検定の試験があった中で、この数学のことについてはどう受けとめておるかというのをちょっとお聞きします。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）やはり数学をただ単に解くという点では、まあまあいけているわけでございますけれども、応用問題とかいろいろ考える、そういう思考的な点にはちょっと欠けておるのが現状であります。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）そうすると、このいわゆる教室によってそれが解消されるのかどうか。答弁をお願いします。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）やはり、こういうことをしまして、先ほど答弁させていただきましたように、算数・数学がおもしろいとか、そういう興味を抱かせるということがやはり

算数・数学の学力を高める一番大事な点であると、そういうふうに考えております。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）講師は今現在何人いるんですか。7名。ちょっと正式に答弁してください。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）現在7名でございます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）ボランティアは何名ですか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）その件も後で答弁させていただきます。

○24番（中西 健君）こういう質問が想定されることはやっぱり教育委員会は。これは当然講師が主体となってやるやつやから、やっぱりそれぐらいの用意はしておいてください。そうでないと、質問が前に進まない。

それはそれとして、50歩譲りましょう。

それについては、やっぱり何年計画、いわゆる場当たりではなく、その何年計画で各地域におもしろ算数・数学教室を開くという、これはやっぱり立てないと、予算の裏づけもとれない、講師が何名必要であるかということも、ただただ今もう1箇所満足しているのかどうか。これはやっぱり地域に広げていただいて、行きたくても遠いから。お母さんやら皆働いている中で、やっぱり地域に根ざしたこういう教室を開いてもらうということが前提となりますので、ここらあたりのひとつしっかりとした。僕は、ただ花火を打ち上げたらそれでいいというんじゃないしに、やっぱり具体的に実行していく段階で、計画というのをしっかりと立てていただきたい。

これについて、教育長、今後私の今質問したとおりの計画書、毎年例えば1教室開くと。

これはもう財政課とも話し合いしていかなあかん場面もあるし、ボランティアの人を募集すると。ボランティアの講師については、やっぱり橋本市はこういうことをやっているから、だからひとつ協力していただきたいと、力を借りたいというメッセージをやっぱり発しないと、中には教職員やられて数学の経験のある先生方は、知らない人もおるかもわからん。これは、はっきりと啓発して、それで予算が難しかったらやっぱり市民の協力を得られるようなそういうものをきちっとやっていかな。そんなもの1箇所で終わりやという話になってはいかんのでね。やっぱり全体のレベルアップを図っていくという意味で、やっぱりそれについてひとつ教育長の決意をちょっと言うてくれるか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）議員も先ほど質問いただきましたように、今現在中央公民館等だけで実施しておるわけでございますけれども、各地区公民館等も含めて橋本市全体のほうでそういう講演会とか講座を積極的にしていきたいと、そういうふうに思います。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）先ほどは、失礼いたしました。

講師の数は7名でございます、すべてボランティアでお願いしております。小・中・高の先生方をお願いしまして、募集をしました。その中で、高校の先生が4名、小・中で3名ということで、講師イコールボランティアということで、無報酬でお願いしております。

以上です。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）そういう実績があるんやから、やっぱりこれからもその地域に教室を開く前提のもとに、講師の先生方の募集も

同時に。まず、先行してやって、きちっと何年にはどこそこの地区、開設していくというようなプランを早急にひとつ、教育長、立てていただきたいんですが、それについて答弁願います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）ぜひその方向で考えていきたいと思えます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）それから、研究会・講習会開催。もう、時間が20分ないのか。そういうことで、この間秋山先生が、これは岡潔WAVEの設立をして、顧問になっていただくと。この秋山先生も有名な数学学者で、岡潔先生を尊敬しておると、こういうような話をされておりましたので、やはり一つの目玉として県下でも近畿でも、岡潔さんを基本としたやっぱり研究会なり、そういうものを大会をね。これもお金にまつわる話なんです、そこらは予算とるのは教育長の仕事ですから、ひとつ頑張っていたきたい。これはもう結構です。

それから、偉人、岡潔さんの顕彰については、これはもう私だけでなく、今やめられた先輩議員からもこの岡潔さんの顕彰は早急にやるべきだと、こういうように議会でもたびたび出ておりました。

前の市長さんは、私は親戚やからということで遠慮されておったんですが、それは親戚とかそんな問題じゃないですよ。こういうりっぱな人を顕彰する。その個人岡潔さんだけじゃなく、やっぱり今の子どもたちに目標、やっぱり定める。やっぱり橋本市が生んだすばらしい数学者であると、こういうこと目標がありますのでね。やっぱりこれをきちっとしていただきたい。

この中には、橋本数学博物館構想というのが、先ほど答弁に出とったかな。出てたろ。

これについて、この岡潔さんの顕彰について、この構想が出とんでけど、これちょっとどういう形で。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）岡潔先生の住んでいかれた建物ですか。まだ、そのまま保管してございますので、それを利用して、岡潔先生の資料館といいますか、記念館を建てていくと。そのことについて、秋山仁先生もいろいろそのことについては協力してあげようという、そういうことも言っていたいております。そういう点でも啓発、顕彰していきたいと、こういうふうに思っております。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）1日も早く前に進めるように、ひとつ教育長、先頭になって頑張っていたきたいと思えます。

それから、この資金となるお金。今、教育長から会費制によって運営されていくと、こういうことなので、今いかにして市民の理解を得られて、やっぱり1人でも多くの会員を増やしていくということが、1人でも多くなればなるほど、この事業が前へ進むので。その後で、市長、これお願いしたいんですよ。こういう橋本市が生んだ岡潔さんという偉人、これはやっぱり橋本東京会、東京会、ここで話をさせていただいて、こういうことで構想を持っておると。これはもう皆市民にお願いして、岡潔さんをたたえて、それで未来の子どもたちを育成していくんだと、この趣旨の話をしてほしい橋本会はお金持ちの多い方が多いと聞いておりますので、その点についても、市長、ひとつ努力をしていただきたいんですが。

市長、どうですか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）中西健議員のご質問で



ございますが、先だっても東京会を開催いたしました、これはもう抜け目なしにふるさと納税をお願いしたところでございますが、岡先生の話はちょっとまだそのときは残念ながら気がつきません、またこれから文書であるとか、市報を送っておりますので、またその際でもまたひとつ申し上げ、来年度の総会ではしっかりとした考え方で、そういう東京で大事な方、ふるさとのそういう偉人をたたえる意味で、ひとつお願いしたいなと思います。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）それもあれもこれもということには、非常に市長もやりにくいと。

僕は、ふるさとの中でもこの事業をやっている地区として、またあそこのふるさとの納税のどういうところに金を充てるということの中に、これをつけ加えて、そういうことによってぐっとお金が集まる可能性もなきにしもあらずですので、そういう方法でまた来年度なりまたそれまでにこういう事業をやっておりますので、ひとつお願いしたいと、こういうように市長のほう、先頭に立ってやっていただきたいなとそういうことでございます。

それから、実行委員会、この事業をやるについて、実行委員会か設立委員会か何かあるんやな。これちょっとそれだけ言うてください。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）まず、算数・数学研究会という組織がございまして、そこらが中心になってやっております。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）これについても幅広く、やっぱりPTAとかそういうような橋本市が責任を持って子どもを育てますと。そういうための資金でございますので、ひとつ各方面

にやっぱりお願いをするという方向で、教育委員会だけでは大変ですけども、何かが母体を設立してやっぱりやっていくと。これも一つの方法ですので、これだけ提言をしておきます。これで1番の数学ワンダーランドを終わります。

次は、紀伊見荘なんです、紀伊見荘、実はなぜこういうように申し上げますという、この日本の国内は今もう不況に進んでおると、大不況であるという。それから、来年にはルートインが開業すると。それから、今橋本市が計画している宿の、これらをやっぱりでき上がると、もろに影響を受けるのが紀伊見荘であると。それは、お客さんの差別化を図ってやる方法もあります。

聞くところによると、この振興会では既に指定管理を受けてから赤字続きやと。非常に困っているというのを聞いております。原因を調べてみますと、この1億6,000円、先ほどの説明の中で1億6,000万円をいわゆる指定管理者に払いなさいと、こういうことで毎年1,400万円、家賃か使用料か知りませんが、この中でこの振興会、中間法人の根古川振興会がいわゆる利益を生み出すために足かせになっているのと違うかと。これ足引っ張って、利益がさっぱり出ないというように思うんですが、経済部長、これはどうですか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）ただいまのご質問でございますが、使用料といたしまして、年間に1,433万1,000円、根古川のほうから紀伊見荘のほうからいただいております。

確かに、平成18年、19年度の決算を見ますと、これをこの使用料を差引きますと確かに黒字になってまいります。ただ、これにつきましては平成9年の改修、それから平成19年のバリアフリー化によります起債の額でございます。ということでございますので、

これについては紀伊見荘で負担をしていただくということで協定を交わしておりますので、こういう赤字という、結果赤字になってきておるといふ結果が出ております。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）僕は決して中間法人の経営を断念せよという話ではない。できるならば、これは地域の人たちがやっているの、やっぱりやる以上は利益が上がらないと月給ももらえない。赤字で結局は全部持ち出しで清算せないかと、これは避けなきゃならん。橋本市も赤字をできるだけ投資については回収しなきゃいかんという、二つが赤字になれば双子の赤字という言葉がありますけども、そのようにならないように。

市長は3月をめどにしていろいろな面からも検討してやるということですので。

この根古川組合にも本当にどのようにしたら、あなた方で経営が成り立つかということも含めて、やっぱり話し合いをして。

例えば、足かせになっておる1,400万円を700万円ずつを返済をして、これは平成30年返済めど。それを延長するとかね。いろいろな方法がありますけども、これは十分に検討していただきたいと、こういうように思いますので、これについては経済部長、どのように対応していきますか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）確かに議員おっしゃるとおりでございます。この起債につきましては、平成34年まで償還がございます。それで、今紀伊見荘におきましても、先ほどの市長の答弁にもありましたように、現在紀伊見荘では経営の改善に向けまして、さまざまな取り組みをしております。その結果、経営の状態が改善しまして、営業が健全な状態で続けていけることができるならば、市にとっても一番いいことでございます。ですから、

このままの経営状態が、好転が望めずまた使用料の滞納や赤字が膨らむということになりますと、先ほども市長からありましたように、指定管理期間中であってでも、市としてやっぱり方向を決めていく必要があるのではないかなという感じがします。

ただ、その場合先ほど議員がおっしゃったように、起債が残ってきます。1億何がしのものが残ってきますので、その辺のことについてやっぱり慎重に協議をしていかなければならないと。すべてにわたって慎重に協議をしていかならないと思っております。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）そういうことでよろしくお願いします。

それでは、3番目の枠内配分。これはもう4番議員にも答弁をされておりますので、あまりしつこくは言いません。

これは本来なら、この3カ年で6億という財源を生み出すために3年間、県が財政健全化計画の中でやっておる中で、やっぱり会社であれば、会社が赤字を出せば、リストラしたり経費節減して利益を生むという使命があります。これはだれのために利益を生まなきゃならんかと言ったら、株主なんですね。

行政が違うのは、さまざまな経費節減をしたりいろんな工夫をされる中で、行政からは株主というのは、市民。これは市民から納税していただいて、やはりサービスを提供しなきゃならんという義務があります。その中で、この枠内配分をすることによって、市民へのサービスが支障を来している部分には心配しておるわけです。

この枠内配分というのは、これは嫌な言い方をするかも知れませんが、こういう配分をすると、要すれば総務部なり財政課は楽なんです。適当にあんたらにこだけお金を渡すさかい、工夫して使ってください。こうい

うような中で。これはひとつは心配しているのが、いわゆる総務部、財政のトップダウンでこれを行っていないかということについては、当然行っていないという返事はあるやろうけども、これは至上命令なんですか。

総務部長。難しい質問やけど、ちょっと。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）味方によりますと、各部へ予算を一般財源ベースで前年度比で枠で充てさせていただいておりますので、総務部からのトップダウンという見方もできるかと思えますけれども、決して先ほどご答弁させていただきましたように、個別の要因もございます。それとなおかつ20年度の場合ですと19年度ベースをもととしておりますので、例えばある課によりますと、前年度であったけれども、20年度でなかったというケースもございます。

そういうことで、我々枠内配分方式というものを今年はじめて採用させていただきまして、この方式がすべて100点満点ということは考えてはございません。今後、今はきのうも担当課長が申し上げましたが、基本的には物件費に絞らせていただいております。

そういうことで、議員ご心配していただいておりますとおり、市民の方々に行政サービスの低下を来たすということは極力避けていかなければならないということで認識をして、財政削減させていただいております。

ただ、そういうことで決してトップダウンということでは考えておりませんので、はい。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）僕が心配しているのは、政策の中での最重要、やっぱり行政課題とある。そこにやっぱり優先的に予算を、枠内配分をする前にきちっと配分するのが、これはもう鉄則だと思うんです。そのことをひとつ考えていただきたい。1分54秒か。

それ、もう一つ、僕ははじめて聞いたんだけど、臨時雇い上げ料。これ人件費で計上していないでしょ。物件費でしょ。これ何だよ。

○議長（中上良隆君）財務課長。

〔財政課長（北山茂樹君）登壇〕

○財政課長（北山茂樹君）賃金は人件費ではなく、物件費になるということですけど、それはあくまで予算の決算統計上の分類によりますと、賃金は物件費に該当するということで、物品費扱いとさせていただいておりますのでございます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）正職員は人件費として計上しとんのやろ。それで、同じ人間が臨時がつくだけでね。こんな物品という。これは行政上の問題でしょ。

○議長（中上良隆君）財務課長。

○財政課長（北山茂樹君）物品じゃなしに物件費という扱いでございますので、物扱いではしておりません、決して。それだけご理解をいただきたいと思います。ただ、統計上、決算統計上全国どこの自治体におきましても分類上は賃金は物件費に該当するということでございます。

○議長（中上良隆君）24番 中西健君。

○24番（中西 健君）これ、やっぱりごろ悪い。だから、物と違うんや。物と違うと言うたけどね。これはれっきとした人件費やながな。これはやっぱり人事が雇い上げた人に申しわけないぞ。ほんまに。そういうことで、別に変えても法律違反にならんやろ。

○議長（中上良隆君）財務課長。

○財政課長（北山茂樹君）あくまで決算統計上の分類でございますので、これを人件費に入れるということはできません。

○議長（中上良隆君）これをもって、24番 中西健君の一般質問は終わりました。

この際、50分まで休憩いたします。

(午後 3 時41分 休憩)